

# 「行ける」から「行きたい」が軸の進路選択へ。 自ら情報収集や相談する行動を促す仕掛けづくり

取材・文／藤崎雅子

県陽高校（埼玉・川口市立）

## 「指定校推薦で行ける学校へ」からの脱却を目指して

川口市立県陽高校は「地域社会に貢献できる『人財』の育成」を目標に「県陽高校構想」を打ち出し、2003年度から継続的に教育力向上に努めてきた。来たる18年度に他の川口市立高校2校と統合することが決定しており、同校の特長を精一杯引き上げて新校に受け継ごうと、現在は最後の仕上げに取り組んでいるところだ。

一連の「県陽高校構想」のなかで、07・08年度に重点的に取り組んだのは進路指導改革だ。当時は進路未決定者の多さが大きな課題だったが、早い段階から進路意識を高める3年間のプログラムを構築し、進路決定率100%を達成した。それから数年が経った今、「現状に合わせて進路指導も変えていく必要がある」と吉野浩一校長。15年度からは新たに「主体的な進路選択ができる能力の育成」を研究テーマとして、川口市教育委員会研究委嘱事業に取り組んでいる。

「進路決定率100%」から「一人ひとりの主体的な進路選択」へと指導の重心を移した背景には、同校生徒の受け身な態度がある。進路指導部・細田圭子先生は生徒について「素直で真面目だけれど、自分から進んで取り組むことが苦手」と指摘。進路についても、「指定校推薦で受かるころに行ければいい」という消極的な選択が目立つとい

う。進路指導主事の小境幸子先生はそこに危機感をもっていた。

「これから生徒が生きていくのは、変化が激しく不確かな社会です。キャリアアτζの必要も増えていくなか、自分の人生を自ら切り拓いていかななくてはなりません。高校段階で主体的に進路選択をさせるとともに、この先の人生を自分らしく生きる力を育みたいと考えました」（小境先生）

## 自己理解から取り組む 3年間の進路プログラム

生徒の主体的な進路選択に向けて、同校が意識しているのは自己理解・進路情報・進路計画・進路選択・問題解決の5つのキーワードだ。これらを盛り込んだ3年間のプログラムを構築し、LHRの時間を中心に展開している（図1）。

1学年は自己理解をテーマに掲げ、職業レディネステスト結果や「ジョハリの窓」を使ってグループワークを行い、多様な視点から自分自身を見つめさせる。昨年度は知識構成型ジグソー法による、大学や専門学校などの進路についての情報共有グループワークも行った。2学年のテーマは、社会・学問を知り、自分の方向性を定めること。大学や専門学校との協力を得て、分野別ガイダンスや模擬授業体験を実施している。そうして将来の目標をもたせ、3学年ではそれぞれの希望進路に向けた計画を立てさせ、実践的な指導を行う。

「ただ話を聞くだけのガイダンスでは、生徒は『わかったつもり』になるだけです。グループワークや授業体験などを取り入れ、生徒の体と頭を動かす工夫をしています」（小境先生）

しかしながら、用意したプログラムをこなすだけでは、同校が目指す「主体性」の育成には十分とはいえない。進路決定やその実現に向け、「自ら行動を起こす」ことを重視。その第一歩として、進路室に足を運ぶことを奨励している。「進路についてどう動いていいかわからず立ち止まってしまう生徒は多いですが、まず進路室に来てもらえれば豊富な情報と経験豊かな教員によって、次に自ら行動するきっかけをつかむこと

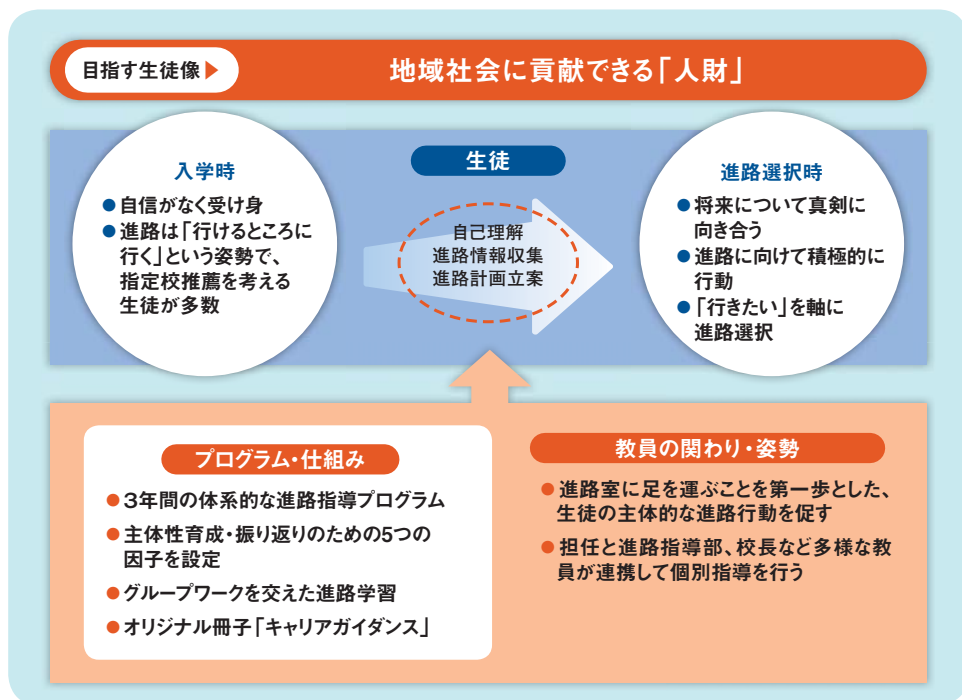




図1 進路指導の年間計画(2016年度)

1学年	テーマ：自己理解
4月	新入生オリエンテーション・進路希望調査・第1回スタディサポート・2者面談
5月	進路適性検査・小論文模試
6月	3者面談・実力テスト・受験ガイダンス・進路学習(職業レディネステスト)
7月	進路学習(職業レディネステスト)進路講演会
8月	夏季進路対策講座・オープンキャンパスおよび説明会参加
9月	進路学習(ジョハリの窓)・第2回スタディサポート・進路講演会
10月	小論文ガイダンス・小論文模試・進路ジグソー活動
11月	進路保護者説明会
1月	模擬授業体験・2者面談
2月	実力テスト・進路カルテ提出
2学年	テーマ：社会を知る
4月	進路ガイダンス・進路希望調査・2者面談
5月	進路適性検査・小論文模試・第1回スタディサポート
6月	3者面談・実力テスト・受験ガイダンス
7月	進路ガイダンス
8月	夏季進路対策講座・オープンキャンパスおよび説明会参加
9月	第2回スタディサポート・進路保護者会
10月	小論文ガイダンス・小論文模試・進路適性検査
11月	進路学習(キャリアゼミ・進路グループ学習)
12月	進路ガイダンス(大学・専門学校による分科会も実施)
1月	模擬授業体験・2者面談
2月	実力テスト・進路カルテ提出
3学年	テーマ：進路実現に向けた行動
4月	進路ガイダンス・進路希望調査・2者面談・進路カルテ提出
5月	進路ガイダンス・小論文模試
6月	3者面談・実力テスト・受験ガイダンス
7月	進路ガイダンス・進路カルテ提出
8月	夏季進路対策講座・オープンキャンパスおよび説明会参加
9月	学年進路指導・進路カルテ提出
10月	進路ガイダンス



進路の手引き「キャリアガイダンス」。幅広い進路情報を網羅し、各種提出書類も綴じられている。



年度末の進路希望調査に使う「進路カルテ」。高校生活の振り返りや面談の記録の欄もある。

大学生による「キャリアゼミ」で生徒が感じたこと

- 今回、話を聞いた大学生で、飛行機のパイロット室のボタンなどの配置を心理学でデザインする仕事に就きたいと言っていた人がいて、本当に仕事は幅が広いんだと思いました。期末テストが終わったら、大学を調べてみます。
- 自分の知らなかったことをたくさん知ることができた。自分が将来何をしたいのか迷ったときは、自分の周りから興味のあることを探すということが印象に残った。
- みんなと意見を交換することで、学問の面白みを知ることができて良かった。
- 自分の進路に一番近い分野を選択しましたが、やっぱり自分が行きたいのはこの分野しかないかと再確認することができました。
- 進路について改めて考えることができた。大学生の話などもっと聞いて、これからの進路決定に役立てられると良いです。



進路指導部 細田圭子先生  
進路指導主事 小境幸子先生  
校長 吉野浩一先生  
進路指導部 鶴田京子先生

「3年生の面接指導はまず担任が行うが、生徒からの依頼により小境先生も今年度は約60人を指導した。」「生徒が話しかけやすい信頼関係を日頃から築き、生徒が自らさまざまな教員に相談する体制にしていきたいと考

えています(小境先生)」「進路選択」に関する項目は低下しており、進路選択に困難さを感じる生徒が増したことがわかった。」「選択肢が多いほど選択は難しくなります。この調査結果は、生徒が多様な価値観と情報に触れたことで選択肢が増え、その正解のない問題にしっかりと向き合おうとした証拠ととらえています(鶴田先生)」「生徒は悩むだけでなく、「自ら動く

積極性が出てきた」と小境先生は行動面にも注目する。進路室を訪れる生徒は増加。進学や就職の試験を控えた3年生は、担任以外の教員にも面接練習の依頼をし、吉野校長への模擬面接依頼は昨年度の2倍近くに増えた。」「健全な悩みが増えて、それを解決するために進路室で情報収集したり、個別相談に動き出したことは、受け身だった生徒たちには大きな前進ではないでしょうか(吉野校長)」「実際の進路選択では、従来のように「指定校推薦から選ぶ」だけではなく、公募推薦やAO入試にチャレンジする生徒が増えている。合格した大学に納得ができない、と浪人を選ぶ生徒も出てきた。」「今、自分で『行きたいところ』を目標に努力した経験は、社会を力強く生きる力にもつながるだろうと期待しています(小境先生)」

「進路室では、進路指導部の教員が丁寧に対応する。」「生徒たちが納得できる進路を決めていくには、個別のフォローが大事になります。私が個別指導で心掛けていいるのは、簡単に答えを与えるのではなく、問いかけることで本人のなかにあるものを引き出すこと。そこで出てくる生徒の言葉から、『それならこれを調べてみたら』など次の行動への道筋をつけるようにしています(小境先生)」

「進路室では、進路指導部の教員が丁寧に対応する。」「生徒たちが納得できる進路を決めていくには、個別のフォローが大事になります。私が個別指導で心掛けていいるのは、簡単に答えを与えるのではなく、問いかけることで本人のなかにあるものを引き出すこと。そこで出てくる生徒の言葉から、『それならこれを調べてみたら』など次の行動への道筋をつけるようにしています(小境先生)」

「進路室では、進路指導部の教員が丁寧に対応する。」「生徒たちが納得できる進路を決めていくには、個別のフォローが大事になります。私が個別指導で心掛けていいるのは、簡単に答えを与えるのではなく、問いかけることで本人のなかにあるものを引き出すこと。そこで出てくる生徒の言葉から、『それならこれを調べてみたら』など次の行動への道筋をつけるようにしています(小境先生)」

将来と真剣に向き合い  
悩む生徒が増加

生徒の主体性を重視した進路指導の実践により、同校生徒に変化の兆しが見える。昨年度、前述の5つのキーワードに基づく生徒アンケートを実施。進路学習前(4月)と後(2月)の結果を比較すると、「自己理解」に関する項目の自己評価はやや上昇したが、「進路選択」に関する項目は低下しており、進路選択に困難さを感じる生徒が増したことがわかった。

「健全な悩みが増えて、それを解決するために進路室で情報収集したり、個別相談に動き出したことは、受け身だった生徒たちには大きな前進ではないでしょうか(吉野校長)」「実際の進路選択では、従来のように「指定校推薦から選ぶ」だけではなく、公募推薦やAO入試にチャレンジする生徒が増えている。合格した大学に納得ができない、と浪人を選ぶ生徒も出てきた。」「今、自分で『行きたいところ』を目標に努力した経験は、社会を力強く生きる力にもつながるだろうと期待しています(小境先生)」



1学年で実施した進路ジグソー活動。プレゼン・学習した内容をグループ内で説明する様子。

1・2年合同分野別模擬授業体験で、トリマーになるための専門学校での模擬授業を受ける生徒たち。

